



## 30周年記念誌に寄せて

松江市ボランティア協会・ボランティア連絡協議会  
元会長（故）山本直治

先ずもって松江市ボランティア連絡協議会発足30周年を迎えられ、ご同慶に存じます。

連絡協議会の前身「松江市ボランティア協会」づくりに関係し更に「連絡協議会」の運営に関わりをもっていた者の1人として、今日までボランティアの育成指導に、連綿として活動を続けて頂いている皆さんに深甚の敬意と感謝の意を表します。さて、今でこそボランティアという言葉は日常化されて来ていますが、松江市でこの言葉が生まれたのは、私の経験からすれば、今から70年位前のこと、私が当時県庁に勤務していた頃、若いせいもあり、土曜・日曜の余暇を、町の子供会づくりと、遊び相手をして随分動き回っていました。1950年（昭和25）頃、当時アメリカから帰国して来たO氏、（彼は通訳として同課に勤務・灘町出身）わたしの地域での活動を見て、「山本さん、あなたは立派なボランティア活動をしていますね」と余り聞きなれない言葉「それは何でしょう。」と聞き返したことを思い出します。その後、革命的と言われるスピードで変革し、主体性・連帯性・無償性を原理とする従来型のボランティアは言うに及ばず、住民参加型と称する有償の福祉サービスまでがボランティア活動に位置づけられ、わが松江市においては、先年来企業の社会貢献活動として、「ネットワーク会議」の組織化がはかられるなど、ボランティア活動の輪が大きく広がりを見せつつあることは 喜ばしい限りです。1983年（昭和58）11月に発足した「松江市ボランティア協会」、次第に加入グループも増加し、活動の更なる発展を期して、2003年（平成15）4月名称を今の「松江市ボランティア連絡協議会」に変更し、今日に至っています。

さて、いささか釈迦に説法の感がありますが、折角の機会を与えて頂きましたので、私のボランティア生活を通し、心の糧として歩んで来た先人の言葉などを一部紹介し記念誌に寄せる言葉に替えさせていただきます。

### ○ボランティアへの道

急いではいけない、かまえてはいけない。耐えることだ、待つことだ、祈ることだ。人間が人間として真剣に生きること。その底からにじみ出るやむにやまない働き、それが本当の意味での社会福祉へのみち、ボランティアの道なのだ。

### ○ボランティアとは

相手の喜ぶことを自分から進んで、何らの代償を求めず又そのことが自分の喜びともなり、自分を高めることにもなるのだ。又持てる者が持たない者にはではない。幸せな者が不幸せな者にでもない。持てる者も持たない者も、幸せな者も不幸せな者も共に在り、共に取り組み共に生きることなのだ。と終わりに私の信条＝ボランティア、それは活動ではない 生活なのだ。そして、人を信じ・人を愛し・人に尽くすことだ。

平成26年12月3日95歳でご逝去なさいました。ご健在のおりご寄稿をいただいております。ここに掲載しました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。